

平成 27 年 12 月 8 日

建設環境委員会 委員長 田村 昌巳

建設環境委員会 行政視察報告

1. 視察年月日 平成 27 年 10 月 27 日（火） ～ 10 月 28 日（水）
2. 視察場所 (1)愛知県豊川市
(2)滋賀県彦根市

3. 視察内容
 - (1) 愛知県豊川市
商店街等活性化事業について
 - (2) 滋賀県彦根市
商業の活性化について

4. 視察参加者

委員長	田村	昌巳
副委員長	町田	成司
委員	幡垣	正生
委員	串田	金八
委員	原田	剛
委員	田村	正秋
随行員	藤井	勲（議会事務局）

5. 視察結果等
 - (1) 愛知県豊川市

- ① 市の概況

市制施行年月日	昭和 18 年 6 月 1 日
人口（住基人口）	181,016 人
世帯数（住基世帯数）	67,214 世帯数
面積	160.79 km ²
平成 27 年度当初予算	56,780,000 千円

- ② 視察の概況
 - (1) 事業実施に至る背景について

年間観光客数が約 600 万人をピークに近年の調査では正月、2 月の時期に集中し 2 か月間で 120 万人、その他の月の合計で 8 万人となり、客数の減少と町の衰退化が深刻となった。商店街の道路の拡幅、現道整備などの計画があったが、まず商業意欲の醸成が大事なのではないかという観点から「できることから始めるまちづくり」ということで自分たちでできるまちづくりをスタート。ワークショップの開催などによる消極的な店主への意識改革を行っているまた、若手店主たちの結束が実現への大きな力となった。



(2) 地域再生計画の内容について

「いなり楽市」の開催(毎月第4日曜日)
商店街店主によりイベントを構成する実行委員会を結成し、それぞれの部会を担当し、数々の催しを企画・開催する
そのため、映画ロケ、イベント、カーレースなど・民間事業者等の経済活動に伴う道路使用許可円滑化
補助事業により駐車場として整備した施設の転用や道路占用許可の弾力化などイベントを積極的に実施できる基盤を作るための支援を市に要望した。

(3) 事業の概要について

「いなり楽市」ではもともとの門前町という異空間を生かし、住民と商店主が主役になっておこなうイベントである。
8メートルという狭い道幅を活用し大道芸やちんどん屋などの催し、古いまちの特性を生かしたまちかど博物館、閑散期の駐車場ではフリーマーケットを開催、商店もそれぞれの演出を考えまち全体が市場となるようなさまざまなこだわりのあるイベントの実施。

(4) 事業等の効果について

月に一回の定期イベントで1万人~2万人の集客を集め
まちの賑わいが復活、地域経済の活性化につながった

(5) 今後の課題について

このまちならではの異空間へのこだわりとして景観整備の推進、地域ブランドの開発事業、消極的商店主へのさらなる意識改革、積極的な情報発信による観光の推進など。

(6) その他

まちづくり会社の設立を目指し、さらなる市民のまちづくり参加へ大きな目標を掲げている。

③ 所感

まちづくりのイベントを機に、地域再生が自分たちの手で出来ていました。商店主たちの考えにより道路計画も見直され、行政に全てを頼らず自主的にまちづくりが構築され、時代の流れに沿った戦略的な活動の実施が大きな成果を生んだと思います。

たくさんのアイデアを実行していく中で、商店街の人々の思いがまちづくりに活かされていると感じました。



(2) 滋賀県彦根市

① 市の概況

人口 112,660 人
世帯数 45,838 世帯数
面積 196.87 km²
平成 27 年度当初予算 39,300,000 千円

② 視察の概況

・彦根市商業振興基本条例に至る背景について

商店街を含む市内にはコンビニエンスストアやドラッグストアなどの「チェーン店」が進出。

市内の商店街組合や経済団体などから、それぞれの団体が主催するイベントや商店街の街路灯などの恩恵を受けていながら、組合や団体に加盟しないという相談や加入の義務付けなどを要望する声が寄せられる。それらの声を受け、市長が制定に向けた意思表示を行い実施に至る



・条例制定後の商業振興への取り組みについて

彦根市中心街地活性化基本計画に基づく事業とし、平成 11 年 1 月に策定、事業期間は平成 10 年～平成 18 年、総事業費は 183 億円で国・県・市からの予算と商店街等の負担金 5 億円という予算で行われている。

・四番町スクエアの整備

土地区画整理事業・ファサード整備事業等

市場商店街 → 四番町スクエア

- ・ファサード整備事業 4 商店街
- ・アーケード整備・改修事業 2 商店街
- ・空き店舗活用事業 3 商店街



③ 所感

元々アーケードがある古い商店街で土地区画整理事業を展開し77件の土地所有者との問題を解決、現在の大正ロマンを感じさせる、というコンセプトとなっているすばらしい街並みでした。

また、市場商店街ということで商店街の中心には観光協会が入っているビルのほか、駐車場も開設し、お土産販売や食事処など観光を目的とした来客にも楽しめるように創られています。この事業に携わった方々に説明を伺いましたが、大変ご苦労されたようでしたが、まちの完成を見る限り成功していると感じました。



両市のまちづくりをわが市に置き換えてみたとき、課題が十分に見えてきた。
特に、数名でも強力なリーダーシップをとることのできる人材がいること、
そして、短時間で実行すべきだと感じた。
両市のこの視察にご尽力いただきました皆様に対し感謝と御礼を申し上げます。